

令和7年10月27日号

御幸が原小だより

～2学期スタート～



発行 宇都宮市立御幸が原小学校

校長 稲澤 正明

栃木県宇都宮市御幸ヶ原町 53-2

TEL 028-663-0358

e-mail mihara-e@ueis.ed.jp



学校 HP QRコード

記録的な猛暑続きだった夏も終わり、やっと秋めいてまいりました。この時期は、「〇〇の秋」と言われるように学習も、読書も、更に屋外での運動にも取り組みやすい季節です。みはらっ子たちには、目の前のすべてのことに意欲的に取り組むことで、実り多い秋として欲しいと思っています。

2学期前半には、いよいよ近づいてきた「運動会」や「おにぎりの日」、土曜授業など保護者の方々のお力添えをいただく行事も計画されております。引き続き、学校へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

5年生「そうだ！日光に行こう!!」10/1 実施

世界遺産に登録された日光の社寺を班ごとに巡りながら、自分で設定した課題の解決にチャレンジしました。大部分の班が、計画通りに落ち着いて行動することができ、調べ学習にも意欲的に取り組みました。今回の経験は、修学旅行の班別行動に向けての大きな自信になったことと思います。



あいさつ運動 20日～31日

計画委員と有志による朝のあいさつ運動を実施しました。「あいさつは人と人の心を結ぶもの」

朝も昼も帰りも、一日中あいさつの声が響き渡る学校にしたいですね。



第4回 PTA 運営委員会 17日実施

今回の主な議題は運動会に向けての様々な対応と「地域まつり」での各専門部の取組確認でした。運動会では新たに用具準備でも児童のサポートをして下さいます。



第1回漢字オリンピックメダリスト

今回は21名のメダリスト(50問全問正解者)がいました。漢字の習得は努力時間に比例します。「努力に勝る天才なし」次回も、漢字練習を通して自分磨きの大切さと達成感をたくさんの児童に感じて欲しいと思っています。



1 学期終業式・2 学期始業式「校長講話」

・1 学期終業式より（可能性）

今日は、1 学期に校長先生が感じたことを、みはらっ子の合言葉「発見・挑戦・創造」の中の「発見」という言葉から振り返ってみたいと思います。

校長先生が1 学期に改めて発見したと思ったことは、「皆さん一人一人がもっている可能性という力です。」可能性とは「頑張ればできるようになるかもしれない」という意味ですが……。なぜ、そのように思ったのかというと、皆さんが半年の間で、多くの点で成長した。と感じたからです。

まず、学校生活の様子では、1 つ目として、朝の取組です。朝の準備を素早く整え、連絡帳を書いている人、係活動で提出物を集めている人、手紙を運んでいる人 また、自分の席で静かに読書をしている人。どれも立派な取り組みですが、このような過ごし方をしている人が多くなってきました。2 つ目は清掃です。今年は6 月・7 月・9 月と、とても暑い日が長く続きましたが、そんな中でも、汗をかきながら床ぶき・水ぶき・掃き掃除など、頑張っている人をたくさん見ました。校長先生は、学校をきれいにできる人は心のきれいな人だと思っています。これから一緒に学校をきれいにしていきたいと思います。3 つ目は廊下の歩き方です。正直なところ、残念ながら、まだ走っている人を見かけますが、それでも右側を歩いて静かに移動している人が増えてきたと思っています。

次に、学習面では、4 月の自分を思い出しながら聞いてください。4 月には知らなかった漢字が、書けるようになったり、読めるようになったり、同じように4 月にはできなかった足し算・引き算、そして掛け算・割り算の計算の仕方や新しい問題の解き方を身に付けられた人も多くいますね。実技教科では、以前よりもボールを遠くに投げられるようになったり、5 年生以上が学習する家庭科では、針と糸を使って上手にお裁縫ができるようになったりした人もいます。音楽集会での楽器演奏も、もちろんその1 つです。このどれもが、皆さんにとっての立派な成長です。

このように皆さんは、「これまででは、できなかったことができるようになる。」だからこそ、「なりたいたいと思う人になれる」校長先生は1 学期の皆さんを見ていて そんな可能性という力をたくさん持っている という発見を改めてしました。

さて、そんな力をもっている皆さんは、これから、どんな人になりたいですか？例えば、優しい人 もし、そうなれたら、きっとまわりから好かれ、たくさんの友達ができるでしょう。毎日の生活がより楽しくなりそうですね。他には、正直な人・素直な人・時には我慢をしながら、やるべきことから逃げない心の強い人。全部の人になれば、スーパーが10 個付くぐらいのみはらっ子になれるですね。もしかしら、この中から将来、自分の夢をかなえて、プロ野球選手やサッカー選手、〇〇博士や小説家・漫画家になる人がいるかもしれません。これからの皆さんがとても楽しみです。

繰り返しますが、皆さんは頑張る方次第で なりたい自分になれる。そんなたくさんの可能性という力を持っている。このことを、いつもいつも覚えておいてください。だからこそ、なりたいたい自分に一歩ずつ近づけるよう自分を磨いてください。先生たちはそんな皆さんをこれからも全力で応援します。

今日はこの後、担任の先生から通知票をいただきますね。秋休みにはその通知票をよく見ながら、自分はどんな人になりたいか、じっくり考えてみてください。

・2 学期始業式より（人と人の心をつなぐもの）

今日は2 学期が始まるにあたり、校長先生から皆さんに「人と人の心をつなぐもの」についての話をします。

「人と人の心をつなぐもの」 皆さんは何だと思えますか？

校長先生は「言葉」だと思っています。ですので、しっかりと、そして、丁寧な言葉遣いができる人は、周りの人、そして目の前の自分の相手を大切に思うことができている人だと思っています。

では、始めに、皆さんが1 日の中で特にたくさん使っている2 つの言葉についての校長先生が考えるその意味と使い方について話をします。

まず1 つ目は「挨拶」についてです。皆さんは言えていますか？

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「おやすみなさい」このような挨拶と言われる言葉は、子供だからと言って「誰かから言われたから返す」というものではありません。校長先生は、大人であっても、子供であっても挨拶は、自分から言う言葉だと思っています。なぜなら、一日の中で自分が出会う相手を、大切に思っているのならば、きっと「自分から言えるはず」と思うからです。ですので、皆さんには、自分から進んで挨拶が言える人になって欲しいと思っています。

2 つ目は「はい」という返事です。皆さんは、友達に、先生に、おうちの人に名前を呼ばれたときに気持ちのよい返事が出来ていますか？

校長先生は、返事は「人と人の心をつなぐスイッチ」だと思っています。

ちょっと試してみますね。

「中里先生」「はい」今、校長先生は、中里先生が返事をしてくれた瞬間に心がつながった感じがしました。しかも、中里先生が良い返事をしてくれたので、とても気持ちのよいつながり方ができたと思っています。中里先生ありがとうございました。「はい」という返事はたった2 文字の言葉ですが、校長先生は互いの心をつなぐためのスイッチとなるととても重要な意味を持つ言葉だと思っています。

挨拶・返事、この2 つの言葉は、最初に話したように一日の中で、特にたくさん使う言葉ですので、皆さんには、しっかりと、そして気持ちよく、言える人になって欲しいと思っています。

そして、最後にもう1 つ伝えたいことは「言葉遣い」です。友達と楽しく話すとき、先生と話するとき、そして授業中、皆さんは使い分けができていますか？

「相手を大切にする」ということは、礼儀と言い換えることもできます。礼儀正しさと考えれば、その使い分けも大切ですね。

今伝えた、挨拶も（「はい」という）返事も「言葉遣い」も「何歳だから、まだできなくてもよい」というものではありません。早く身に付けられれば、付けられるほどよいものだと思っています。「言葉は人と人との心をつなぐもの」だからこそ、2 学期の学校生活では、「言葉」を大切に、そして、しっかりと使いながら生活して欲しいと思っています。

上級生の皆さんの中には、今伝えたことがもうすでに身についている人もいますね。

そのような人はぜひ、学校全体のお手本になってください。

最後まで読んでいただきありがとうございます。